

杉並区立西田小学校 令和4年度第11回 学校運営協議会記録

- ・日時 令和5年3月13日（月） 午後4時から午後6時
- ・場所 図書室
- ・出席者 棚橋会長職務代行（司会）、鈴木校長、恵羅、渡邊、目黒、中澤、望月、半澤、檜枝（記録）
【事務局】神近副校長
- ・資料 資料1 令和4年度第11回学校運営協議会次第
資料2 令和4年度教育調査令和4年2月再実施（保護者）
資料3 6年生をおくる会
資料4 なみすく2023年春号

1 会長挨拶

- ・諏訪会長が欠席のためなし。

2 校長挨拶

- ・令和4年度教育調査令和4年2月再実施（保護者）の説明がありました（資料2）。
- ・「6年生を送る会」の説明がありました（資料3）。3年ぶりに体育館で行うことができました。進行は児童の代表委員会が行いました。1年から4年は学年ごとに行いました。5と6年生で、漢字対決、計算対決、ながなわ対決が行われました。
- ・3月8日にウクライナ交流会が行われました（資料3）。
- ・3月21日に人事異動が新聞紙上で発表されます。

3 1年間の振り返り

出席者から以下の発言がありました。

- ・80周年記念行事と未来の学校で、学校運営協議会（以下、協議会と省略）が学校にかかわったが、学校の日常に協議会がかかわってきませんでした。来年度は、もっと学校の日々を見ていきたいです。今回のPTAの問題も日々のかかわりを持つと、もっと前の段階でより適切な対応ができたでしょう。
- ・80周年記念行事は「つなぐ」がテーマでしたが、学校と地域を「つなぐ」ことは残念ながら十分にできませんでした。
- ・「学校と地域がパートナーとして連携・協働する」ためには、「学校のために」という視点だけでなく「地域のために」という双方向的な視点が必要ですが、これまで十分でなかったと思います。今後心がけていきたいです。

- 80周年記念行事で、関係者間のコミュニケーションが十分でなかった面がありましたが、当日の現場では話し合って課題をうまく解決できました。会話、コミュニケーションが大切です。来年度は保護者、児童との会話を深めたいです。
- 80周年を契機に、「西田小学校地域連絡会」を設立しましたが、第1回を2021年12月9日に開催しただけでした。来年度は各学期1回ぐらい開催したいです。
- 頭でっかちになっている傾向があります。もっと児童、地域、教員との懇談等を増やして、現場からの発想を生かしていきたいです。
- 児童の自主性を尊重する教育が望ましいと思います。
- 地域との関係は薄いと思います。地域との関係についていろいろ工夫して成功している他校の事例なども調べて、西田小にふさわしい有効な方法を工夫して取り組めると良いでしょう。
- 協議会と地域学校協働活動担当の支援本部は一体的推進が求められていますので、支援本部の振り返りを報告しました。来年度から、保護者が活躍できる場を提供したいです。
- トワイライトミュージアム、フェアトレードなどへの協力は良かったです。
- 西田小は全国的に有名です。児童の活動を支援するために地域の方、PTA、支援本部などが機能しているのでしょうか。
- 鈴木校長から以下の発言がありました。
 - *校長になり4年目になりました。
 - *子どもたちが、良く考え、話し合い、行動に移すようになりました。子どもたちが大人を動かすこともあります。子どもたちが自主的に動けるようになるのが目標でしたが、それができつつあります。
 - *12月3日に行われた80周年記念行事はとても良い会でありました。皆様のご協力に感謝します。

4 ご助言いただいたことについて

委員から以下のような意見がありました。

- 「PTAの会議資料が外部流出した」という問題は、PTAの組織内の問題で、資料の内容が問題であるという現在我々が懸念していることには直接関係がありません。神近副校長は資料に書かれている改革案そのものに対して、どういう評価をされているのか伺いたいです。
- PTAの直面している問題に対してどのような動きをしていたかという現状についての報告が協議会の場でほとんど報告されませんでした。校長は、PTAの問題を協議会が関心を払うべき協議事項として考えておられなかったこととなります。協議会の役割というものを矮小化していたということになります。これまでの協議会のあり方がESDばかりに偏り、教育現場に寄り添った、地に足の着いたものでなかったことが、今回のような校長の対応に表れている気がします。

- いきさつはどうあれ、一般論として言えば、運営上の混乱は組織執行部が責任を負わなければなりません。やりようによってうまくもまずくもなります。PTA 内部の混乱・動揺、外部を巻き込んでの混乱をもたらしたのは現執行部の責任であります。PTA もこの機会に、現役員は総退陣しリセットして、新執行部のもと原点に還り再出発すべきです。
- PTA 提案を読ませていただいて内容についてびっくりしました。こんな差別があっているのでしょうか。学校では児童たちに SDGs を学ばせているのに、PTA にこのような考え方であるのは残念です。特に、PTA 規約の差別化と階級制度は時代錯誤も甚だしいとしか言えません。
- 協議会から PTA 配布予定文書が差別的内容を含んでいるとの指摘のあったことを、学校側から PTA に伝えたことを踏まえ、PTA が予定していた臨時総会を延期し、今後時間をかけて検討することになったのであれば、今後の成り行きとしては、もう一度神近副校長（PTA 副会長）と PTA 内で検討してもらえればよいのではないのでしょうか。
- 協議会は、今後過去の話をつっ込むことより、これから先のための議論の場としたいです。
- 学校内で子供に対しての如何なる差別も許されません。しかし PTA は大人の世界の話であり、正会員と非会員があるならば、そこに何らかの区別・差別が生じるのはありうることです。その何らかとは何であるのでしょうか？どんな区別・差別なら許されるものなのかを議論すべきではないのでしょうか。そこを飛ばして、差をつけたことを正当化するために、条文改定をしようとしたことが今回の問題なのです。例えば、保険に加入していない人が、加入している人と同じ補償が得られないのは、当たり前のことです。そこには保険による補償が予め決められているから、納得が得られるのです。非会員から受け入れられ、教育現場としても納得でき、PTA 会員も納得でき、且つ法的にも問題のないものは何かを突き詰める時間が必要でしょう。
- ESD、SDGs、インクルーシブ教育といった理想を発信している西田小が、内部では差別的な PTA 提案を認めるならば、外部への発信と内部の措置が矛盾していると見られて、批判にされされるリスクを懸念します。
- 今回のことは協議会が十分に機能しなかった事例です。より良く機能する協議会にするために、検証と改善策の検討は必要でしょう。
- すべての児童は西田小の子どもです。非会員と会員の子どもを区別するのは良くないことだという基本に立ち返って欲しいです。
- 執行部でない保護者の意見を、心広く時間をかけて聞かなければいけません。
- 差別はいけないことです。一方、このような提案が出てくるのはよほどのことがあったのだと思います。
- 2018年に、PTAの積極的な役割を十分に説明しないで任意加入であることを顕在化したため非会員が増えました。このことが、今回の問題の背景にあるでしょう。
- 桃二小では、歴代のPTA会長がアドバイザーのような役目をしていると聞きました。西田小でも検討したらどうでしょうか。

5 その他

- 前回の協議会記録をHPに早急にアップして欲しいです。協議会でどのような議論が行われたかを保護者に知ってほしいです。
- 3月6日に行われた松溪中学校の協議会で、小中合同協議会を11月に行う件に関して西田小と相談することになりました。西田小も前向きに検討することになりました。
- なみすく2023年春号が配布されました（資料4）。

事務連絡

4月学校運営協議会開催予定

4月17日（月）午後4時00分～午後5時30分

以上